イリス・ラーミナ
the first story

「…。」
（上背はmくらい、重さは相当なものか、
よくここまで育ったものだな。）

場所はとある廃施設、
そこにいる巨大な体躯のカニのような姿をしたマーゴと
相対するは、
マーゴハンター、イリス・ラーミナ。

（何本か試した感じ、外殻の物理防御力が異常だな、
一部は切れたが後は突き立てるのが精いっぱいか…。）

キセルから紫煙を吐きながらマーゴを観察するように
歩きながら横に回るイリス。
マーゴは敵を狙わんと外殻の隙間から何本も触手を生み出し
攻撃するが、イリスがいる場所とは見当違いの方向に
炸裂し地面に穴を開ける。
思った結果が出ず怒りに震えるマーゴは
グルグルと凄まじいスピードで回り始め
鋏と触手を無作為に振り回し始める。

（まぁ、いい手ではあるな、
ふ〜む、隙間を狙えば解体は簡単ではあるが、
それじゃあつまらない…。）

眼を閉じキセルを加え考え事を始めるイリスに
巨大な鋏と触手の猛攻が降り注ぐ。
狙いが定まっていないながらも
物量のお陰で攻撃はイリスに届くが、
彼女は考え事をしながらもその猛攻を全て躱し、
時折鈍器のようなアニマウェポン、
ドリュオフロスを振るい弾いたり
携行するエクウスから取り出したサブアニマで対応する。
生み出したエネルギーレールに乗せた
エクウスを縦横無尽に走らせ
考え事と紫煙を吐く事と攻撃と防御を同時にこなしていく。

カニマーゴの奇行には訳がある。
イリスが吹かしているキセルから出る煙は煙草では無く特殊な成分の薬草を燃焼させているのだが、その煙にはマーゴの視覚と嗅覚を効かなくする効果がある。
カニマーゴは最初は姿がぼやけた何かが来た程度の事を察知し身構えたのだが気を抜くと姿が殆ど見えなくなる何かに突然角の一部を切断され臨戦態勢を取り反撃するも、次々に甲羅に剣を突き立てられたり確実に傷が多くなっていく事で未知の敵に攻撃が通じておらず、追い詰められた末の巨躯を生かした無差別攻撃を仕掛けたのだった。

「ふっ！。」
（外殻は…分厚いのが4層位だろうか…、よし。）
固いものは砕く方が面白い、襲い来る鋏の一撃にタイミングを合わせイリスはアニマウェポンの先端が開きエネルギークローが捕らえると凄まじい速度でぶつかった巨大な鋏がぴたりと止まる、そして内部に隠された機構がイリスのエネルギーを硬質化した巨大な杭を打ち出す。

「…ほう。」
（アタシのパイルを受けきるか…。）
甲高い音が響くが鋏にはヒビこそ入っているものの杭は中程までで止まっていた。
その外殻の丈夫さに感嘆するイリスを激昂したマーゴが腕を挟まれたままに振り回す。
宙を舞うイリスだが勢いを利用し良きタイミングでクローを外しマーゴの背後へ着地する。

「ふっ…ふふ…。」
（…これを貰いてみたい…、ふふふ、いいな、これは貰かねば！…。）
最早マーゴというよりその固い外殻への探究欲に無表情だったイリスの口元が吊り上がると、身に纏う衣服が発光しはじめる。

（面白いじゃないか！！。）

光が弾けるとイリスの身を守るアーマーは形を変え、
着物の様だった戦闘衣装が
全身を包むラバースーツに変貌する、
黒髪は鮮やかな金色に輝き獰猛な笑みを浮かべるその姿は
まるで別人のようだった。

（最大威力のブラストルパイル、
久しぶりにぶっ放す！。）

アニマウェポンから激しい発光と共に
先程よりも輝きが強くなった杭が生み出される。

ぼやけた敵から突然膨れ上がるエネルギーの奔流に
恐怖を覚えたカニ型マーゴは全力と思われる程の触手を
生み出し、イリスへと殺到させるが、
その攻撃パターンを見切ったイリスは
全てを回避しながらマーゴへと迫り、

必殺のブラストルパイルを突き立てた――。

「ふう。」

アニマウェポンが淡い光を放ちながら消滅していく、次いでエネルギーレールも消滅し、エクウスが地面に落ちる。

最大威力のブラストパイルの一撃はカニマーゴの固い外殻を見事に貫き内部で起こった爆発により粉砕した。

だが最大威力の攻撃はイリスのエネルギーを大きく消費し、全ての装備が使用不能になってしまう。

（まさかあんなに激しく爆発するとは…、アーマーの損傷は少し、スーツは問題なしだけどダメージは結構あったな、体に上手く力が入らない…。まあいいか、スッキリしたし。）

マーゴが死ぬ直前想定以上の爆発が起こり破片が雨のようにイリスに降り注いだ、だがマーゴハンターとしてのバリアとスーツの防御力もあって重症こそ負わなかったもののそれなりのダメージは負ってしまったらしい。

一時的ではあるが戦場で1人武器を失った危険な状況だが全開のアニマウェポンをふるい固い外殻を砕いた満足感でイリスの表情は晴れやかであった。

（さて、帰るか、？……ん？。）

ヴ…
ヴィ
ズル…ズル…
キチッ
「……。」
（外殻はマーゴの体と別のものだったか、失敗したかな…。）

（一部が外殻の中に逃げてたのか、しかし意思があるようには見えない…。
脳が破壊されても内臓がある程度残っていたら
自己再生がプログラムされているタイプか…。）
四つん這いの姿勢で固定されるイリス。
それはイリスが帰ろうとした時に起こった、
消滅していなかった外殻の中から内臓のような物が吹き出し
イリスに襲い掛かってきたのだ。
ヴ…
ズルズル…
（あの角はバインドオーラ発生器官だったか、早々に一つ切り落として
おいて正解だったな。）
弱体化しているとはいえ意思が感じられない
触手等余裕で躱せるはずだったのだが、
それを阻んだのが今イリスの頭上で歪な輪を作り
輝くバインドオーラだった。

バインドオーラは全てのマーゴの基本能力で獲物の動きを止める念動力のようなものである。
下級マーゴのバインドーラならば人間には有効だがマーゴハンター相手ではあまり効果が無く、中級になるとそれ以上の能力が身に付くため使わなくなっていく。
だが時折バインドオーラに特化した上級もいて、このカニ型もそうだったらしいが戦闘が始まって早々にその発生器官の一つをイリスに切断された事で使えなくなったようなのだが…。

（威力だけは凄いが、このまばらな感じ…、これは暴走してるな、じゃあしばらくすれば解けるだろう…。）

体全体を襲う圧迫感は普通の人間ならば団子状に丸められかねない力が込められている、しかしこういった事態に備えイリスのスーツは力が使えない状態でもエネルギーが回復するまでの時間は最大の防御力を発揮するように出来ている、なので体は動かないものの潰される事は無いがこれ程の圧力があるならば先程の戦闘中使わないのはおかしい、という事は今の状態はバインドオーラが制御不能になっていると推察できる、なら時間が経てばこの縛めから解放されるだろうとイリスは予測した。

（とりあえずアソコとおっぱいを目指すのか…
ということはマーゴのエロい生態に脳は関係ないということか…。）
どうせ暫くは動けないしこのような自動再生型というのは
そうお目にかかれるものではない、
なのでイリスは今も手足に絡みつきながら背中の方に上り、
そこから胸と股間に触手を伸ばしているこのマーゴの生態を
観察する事にした。
ヴ…
ズルズル…

（形が違う触手か…、動きは弱いな。）
細くつるりとした触手が追加されイリスの体を這い回る、確実に体の感度が上がっているのが分かっている状況での形の違う触手の追加に身構えるがその刺激は思ったよりも小さいものだった、だが。
「んくぁっ！…あ。」
（この触手は探索用…？、しまったか、でも意思がないのに…。）
細触手がある場所に触れた時、イリスの口から明かな喘ぎ声が漏れる、その瞬間細触手はその動きを止める、
その一連の動きに一抹の不安を覚えるイリス、だが意思無きはずの肉塊にそんな事が出来るのか？そう思った矢先交代するように別の触手が現れ――。
ヴ…
ズル…
ヂュッ

「…んいつ！、くうぁ♥！。」
ビクッ♥
ビクッ!!
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ジク ジク

「くはッ♥…ハァ、はっ、くぁ…ぁ…あ♥…。」
（うぅ…だんだん、ヘソの弄りかたが…上手く、んぁあっ！、だ、だめだ…もう。が、がまん…が、あっ、はうっ♥♡！、ああっ♥♥……。）
ビクン!!
ジグ ジグ
まるで性器の入り口をかき分けるように何本もの細触手がうねりおへソを広げるように蠢くがその動きはどんどんイリスが心地好く感じるものへと変わっていく、
そして次第に逃げ場を失い許容量限界に至った快感は遂に溢れ頂きへとイリスを打ち上げた。

（ま…ずい、スーツの維持が、み、乱されんおおッ♥♥！。）

休む間も無く10回以上の絶頂を与えられ、息も絶え絶えなイリスの金髪の一部に淡い輝きが灯るとその部分から髪の色が元の色にゆっくりと変わり始める。

それに併せるように先程まではイリスの体にピッチリと貼りつきシワ一つ無かった筈のスーツが触手に引っ張られシワのようなものが出来ており、それどころか破損しているとはいえこれまで侵入できていなかった性器を目指す触手の先端がアーマーの隙間に入り込めるようになっていた。

（はううっ♥♥！、だめ、ま、にあわ、ないいいいっ♡♡♥♥♥！。）回復、

未だに暴走したバインドオーラ発生器官はその動きを止めておらず、状況を打開しようにもエネルギーの回復が間に合っていない。どうする事も出来ないマーゴハンターの股間に新たな内臓触手が鎌首をもたげ狙いを定めていた――。

『んあぉっ♥♥!、はっ・・・へは♥
ビクッビクッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

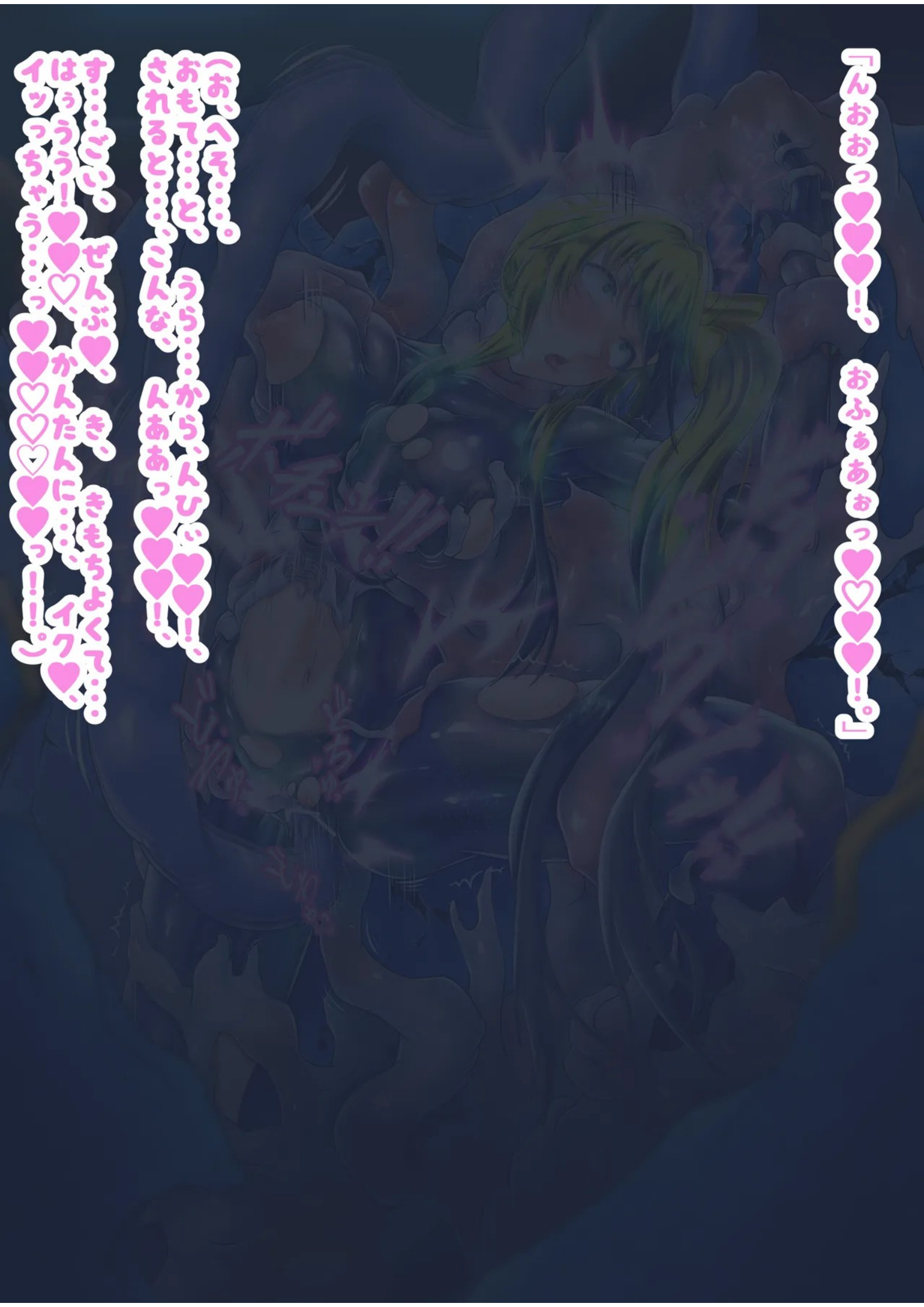
（こ…れはっ、まずい…かな…くはぁ♥♥！。）

内臓触手は絶頂に震えるイリスを捕らえるものと付近に枝葉を伸ばすように触手を伸ばし砕け散らばった外殻を集めるものに分かれた。

大きいサイズのものはその重量からか中々動かないが先に集まった中程度のものはすぐに集まりそれなりの大きさの塊が生まれる。

同じ頃に弱体化した股間のアーマーを砕いた野太い触手がイリスを貫く、奥まで入り込んだ触手はイリスをそのまま吊り上げその塊に叩きつけた。

スーツの防御力が生きていたおかげで強いダメージは無かったが、度重なる弱点を刺激されての絶頂に力の入らないイリスはろくな抵抗も出来ず絡みつかれる触手に厚さと強度を保てなくなってきたスーツの各所を破かれ、壊されながら外殻の塊に張り付けにされてしまう。


『んおおっ♥♥♥！、おふぁあぁっ♥♡♥♥！。』
（お、へそ…。おもて…と、されると…、こんな、うら…から、んひぃ♥♥！、んあぁっ♥♥♥！、す…ごい、ぜんぶ♥、き、きもちよくて…はぅうう！♥♥♡、かんたんに…、イク♥、イッちゃう…っ♥♥♡♡♡♥♥っ！！！。）

髪の色が元に戻るという事は、スーツの防御が皆無に等しい状態になった事を示す。

そんな状態で胸を揉みつぶされ、全身を締め上げられる力任せの女を犯す為に行われる性技とかけ離れた最早暴力と言える行為も、すでに直で塗りつけられ媚薬に狂わされた体は最大の弱点であるおへソを内と外から嬲られる事で全てが甘美な抗えぬ快楽に変換され蕩けイキ狂ってしまう。

イリスを閉じ込めるように大きな破片が次々に集まってくるが、悦楽に翻弄される彼女に出来る事は無くなり絶頂による痙攣だけを続けながら

イリスは意識を落とされていった――。

（……、――ああ、そういえば明日約束があるんだ――。）

「…おえ…。」

えずきそうになるイリス。

焦げ臭さと生臭さが入り混じった香りと強い空腹時に全力疾走したような胸のムカつきが合わさった気持ち悪さからだが、幸い体の内容物はエネルギーに変換済みだったので、何かを吐き出さずに済んだ。

（…久しぶりにやってしまったな…、しかも収穫なしか。）

先程よりも細かく砕かれた外殻と散らばり焼け焦げ消滅していくマーゴの内臓。

左手に持つエクウスが煙を吹き火花を散らし壊れているのを見るに、持っていた爆発物を使って窮地を脱したのだろうし、体中に走る痛みからかなり無茶な事をしたのだろうと思うのだが、

イリスにその記憶が無かった。

イリスの思考能力は他者と比べ特殊なものらしく、
その所為で普段からぼーっとしたり
突飛な行動をする時がありそれが原因で衝突
（イリスは何故怒っているか分からず
、相手がより激怒するタイプ。）
する事も多いのだが、

今回のように劣勢に立たされ意識を失った時に
時折気が付くと状況を打開している時があるのだ。

この現象に関してはイリス自身様々な手段で
調べたのだが原因は分からず、
おそらく長い期間、件の特殊な思考を続けた事で
そのような事が起こったのでは？、
程度の結論しか得られなかった。

これは長期的な調査が必要だと思ったイリスは
探究心的な意味も含めてこの現象を観測する事にした。

ただ意識を失う様な危機的状況がそんなに無く、
観察できるかどうかも確定では無い為
まだまだ朧気な部分が多いのだが、
どうやら人格とも言えない自分の思考の一部が
体を動かしている様なのだ。

（…もう少し労わって使って欲しいものだ…。）

どのような手を使ったかは分からないが
自分の体なのだからあまり無茶はしないで欲しいと
痛む体を引きずりながら他人事のように思う
イリスだった。

（舌も切れてる…明日までに治るかな。）

明日は友人のアイシャとレントが食事を奢ってくれる約束をしているのだ。

マーゴハンター同士は助け、助けられは当たり前なのだが、助けられた方は助けた方のリクエストで食事を奢るという暗黙のルールが存在する。

今回は先日レントとアイシャを救うのを手伝ったお礼としてなのだが、その店はイリスが何度も挑戦するも中々予約の取れなかった店でダメ元でアイシャにリクエストしてみたのだが、なんと予約が取れたというのだ。

何故か口の中がズタズタで舌が痺れ血の味も分からない、だが念願の行きたかった店で味が分からないというのは本当に困る、

どうすれば明日までに回復出来るだろう？、疲労じきった体の事よりも彼女の思考はその事を解決する為に回り始めたのだった――。

イリス・ラーミナ

イリス・ラーミナ
エネルギー操作技術に秀で、
多数の武器を巧みに扱う戦闘を行う
クラス４のマーゴハンター。
口数少なくいつもぼんやりとした印象で、
何故か単独任務ばかり行っている。

マーゴハンターになったのは
幼少の頃教わった剣術をきっかけに
武器を振るうという行為に
凄まじい魅力を覚えた事に始まる。
その後様々な武器を求め、
それを扱う為の技術や武術を学び、
時には開発も行っていたのだが、
偶然マーゴハンターという存在を知り
アニマウェポンという
極めて特殊な武器があるという事を聞き、
それを振るいたいという欲求から
マーゴハンターとなった。

かなりマイペースな性格で面倒くさい事が大嫌い、
時折複数人の任務があっても
無口というわけではないが
基本的に用が無ければ口を開かないし、
食事等の人付き合いの誘いも
気分が乗らなければ空気を読む事無く断る。

類いまれな技術を持つため、
アダマンティウス・リベラティオから
何度もクラス5への昇格と
弟子を持つことを勧められているが、
面倒くさいという理由で断り続けている。

また結果さえよければ
経過には拘らない所があるので
指示の無視も茶飯事だったり、

些細な事でも興味を持つと
例え任務中でも調べたり、
試したりしてしまう癖があり、
時にはその奇抜な行動に
巻き込まれてしまう者もいて
その所為でトラブルも多く、
一部の人間からは
良く思われていないらしい。

誤解を招きやすい性格だが
近しくなると友情に熱い面があり、
友達の危機には何を置いても駆けつけてくれる、
また興味のある方向に誘導すれば
指示も聞くしきちんと働いてくれる。

アイシャとカルミアは運よく
彼女のそういう所を早々に理解出来たため、
大きな衝突を起こす前に友人関係になり
時折一緒の任務を行う事がある。

またある時アイシャと組んだ任務で
弟子であるレントと出会うのだが、
戦闘時の華麗な武器さばきに感動したレントが
その技を教えて欲しいとお願いした所、
当然面倒くさいと断ったのだが
その後も事あるごとにレントにお願いされる。

イリスは自分から話す事は少ないが
話しかけられれば答えるという所や、
彼女が好きな話題などをアイシャ達が
吹き込んだ事もあってか次第にレントと
仲良くなり今では友人として
時折レントに武器の扱いや
戦術等の指南をしている。

特殊な思考能力

観察眼と解析能力が凄まじく
単独任務をこなし続けられるのは
その能力が高い為だと言われている。

それは複数の思考が特殊な並列状態と
なっているのが理由らしいのだが、
それが原因で口数が少なかったり
ぼんやりとしてしまう事が多いという。

しかし時折興味と思考と嗜好が噛み合う事があり、
その時は別人のような活発な表情を見せる。

この状態になると
後先考えられなくなってしまう悪癖があり、
それが他者とのトラブルの種であると同時に
自分も危機的状況に追いやってしまう事がある。

また、このような思考を長年続けてきた為か
自分を客観視する思考が存在するように
なったらしく、

その思考は人格が乖離しているわけではないが
イリスが意識を失うような状況では
まるで別人格の様に振舞う事があり、
その時の記憶はイリスにも
ない時があるらしい。

キセルで吸っているのは
特別な薬草を調合したもので
煙草の成分は入っていない。
香りは植物系の香りで
リラックス効果が高いらしい、
その煙はマーゴの視覚と嗅覚を
狂わせる効果があり
吸っている当人を含め、
煙を纏っている者にもその効果があるので
共同任務の前には
仲間に煙を吹きかけたりするのだが、
肝心の煙の効果の説明を先にせず
煙を吹きかけたりするので
一部のマーゴハンターからは
強烈に嫌われていたりする。
着火はエネルギー加熱式で、
特異な形状はそれ自体が
打突武器として使えるように
なっているからである。

アニマウェポン、ドリュオフロス
先端が鈍器のような形状をしている
イリスのアニマウェポン。
起動状態でクローを伸ばし上下に別れ
敵を挟み捕らえ、内部で生成されたエネルギー杭
「ブラストルパイル」を撃ち込む。
ブラストルパイルはその威力次第で
本数や貫通力や属性を変えられるが
必殺の威力を込めた際の貫通力は
これまで貫けなったものは無いらしい。
先端部分はエネルギークロー無しでも強力な咬合力だが
エネルギークローは咬合した瞬間に
無数のエネルギーの棘が生み挟んだ相手を逃さず
そのままにブラストルパイルを打ち込んだり、
閉じたまま敵の体に突き刺し、
中で無理矢理クローを広げ
敵体内にパイルを打ち込んだりなどの戦法を取る、
煙の効果で姿が見えない中で聞かされる
ガチン、ガチンと噛み合わせる音はマーゴに
何かが迫りくる恐怖を与える。

ウェポンラック　エクウス
ブラストルパイルは威力次第ではあるが
大きくエネルギーを消費し易い
アニマウェポンなので、
必然的に戦闘の大半を賄うサブアニマを
収める為のウェポンラック。
大きさや個数は任務次第だが
体の各所から生み出す
エネルギーレールに固定する。
レールはイリスの好きな形状に出来るので
扱う武器と戦況に適した場所に
エクウスを固定し、
非常に柔軟な戦い方が出来る。

ルパージュ
イリスを包む戦闘衣装、
その全てはイリスのエネルギーで
構築されている、
和装のような形状を好むが気分次第で
その形状は頻繁に変わる。

イリス・ラーミナ （高出力対応形態）

戦闘着をラバースーツ状態に切り替えた
高出力時に対応した形態。
この形態は最大威力の攻撃を最速で繰り出す為に
極限まで戦闘着を縮小したものだが、
全ての興味が噛み合った後先考えない悪癖が
発動した際には最大威力の攻撃をしてしまう事が多く、
直後は戦闘力が殆ど無くなってしまう。
そんな戦闘力ゼロ状態からある程度のエネルギーが
回復するまでの間に敵に襲われても大丈夫なように
非常に高い防御力を持っている。
この時髪の色が変化するが
それはスーツの防御力と連動しており、
イリスから切り離されている状態のスーツに
異常が起きた事が分かるようにしたもので
防御力の低下と共に髪の色が
元に戻っていってしまう。

髪飾り
イリスが最も拘った部分で、
展開放出状態ではまるで
鳥が頭に刺さったような形になる、
因みにそれをバカにするような事を言うと、
心の壁が高くなり、
面白いね、とかかっこいいねと肯定的
な事を言ってあげると
表情に出ない事が多いがとても喜ぶ。

Weak point
体質的に快感増幅系の薬物や
術等の効果を受けやすく、
感覚が鋭い為に
通常よりも強い影響が出てしまう。
だが、術等に関しては分析、解析する事で
対応出来たりするものも多く、
特に洗脳、催眠系の術は催眠にかかったままで
その特殊な思考で体を動かす事が可能で
なんの問題もないかのように
戦闘し続ける事が可能だったりする。

Weak point

イリスはおへソが異常に敏感なのだが、
これはマーゴハンター後に開発されたものではなく、

幼少の頃、彼女の周りで美容ブームのようなものがあり、
その中でヘソのゴマ取りが行われたのだが
不器用な子達は定番の腹痛を起こし次々に辞めていく中、
イリスはその頃から手先が非常に器用で
極めて安全に行う事が出来た。

しかも興味を持つと集中しやすい性格から
その行為は何度も行われ、
気が付くと掃除というよりは
気持ちいいという感覚を得るようになった。

更に年齢が進むと、
おへソの気持ちいい感覚と性的な快感を混ぜる事
が出来た事をきっかけに
おへソも併せた自慰行為を行うようになっていた。

Weak point
そしてマーゴハンターに成った時、
あらゆる感覚が以前に比べ
圧倒的に鋭敏になったのだが、
おヘソの感覚もより鋭敏になっていて、
強い性感帯レベルへと
昇華してしまったようなのである。
エネルギー枯渇状態で媚薬と併せて責められると、
とてつもない劣勢に立たされる事もあるのだが、
弱点があるというのは
戦闘において面白いかもと
零していた事もあるらしく、
それすらも楽しんでいる
フシがあるのではないかと思われる。